令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	栄養科学部・栄養科学科
責任者（又は記入者）	村元 美代

基準領域 1	教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

○事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記していますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

〈前年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
1	栄養科学部は、管理栄養士国家試験合格を目的とした養成施設であり、栄養教諭養成の教育的価値を学部全体で学生へ周知することが弱い。
2	栄養科学科では、管理栄養士養成施設であるため必修科目が多い。管理栄養士像に加えた栄養教諭像の負担増もあり、教職課程履修学生は学年が上がるごとに減少傾向にある。
3	栄養科学科では、単位履修の可視化はできているが、「事前事後学修」の可視化は不明確である。
4	教員養成サポートセンター所長は、教職課程の教員配置について教職課程認定基準を把握するよう努めているが、負担を軽減し人事委員会内での適時判断ができるよう、教職課程に関わる案件において人事委員会における教職事務担当者を位置づける必要がある。
5	各学科と全学組織の見地、全学的意思の統一をはかる難しさがある。
6	教員養成 GP 予算付与期間を過ぎて以降の予算管理及び設備管理・運用の組織的再配置を進める必要がある。
7	授業評価アンケートの担当部署から、結果提供を受けられるしくみをつくる必要がある。その上で、教職課程についてのFD・SDの取り組みにつなげることが必要である。
8	数値的な公表については年度更新を行っているが、全体的な情報について評価を受ける機会はこれまでなく、短大部との見せ方にも方針をたて統一性をもたせたい。
9	栄養教諭課程では、全学組織と効果的な連携関係にはあるが、栄養教諭養成の特殊性についての全学的理解が課題である。

〈前年度の評価結果（課題事項）〉

課題事項〈箇条書き〉 * 各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。

なし

〈【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項〉

* 認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。
このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート 1

所属学部・学科名	栄養科学部・栄養科学科
責任者（又は記入者）	村元 美代

基準領域 1	教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

1 対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の4段階で記入してください。

判定の目安

- Ⅳ： 基準に十分に適合している
- Ⅲ： 基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。
- Ⅱ： 部分的に適合していないため改善を要する。
- Ⅰ： 基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現状
1	教職課程教育の目的・目標を共有	① 教職課程の目的・目標を「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。	Ⅱ
2		② 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。	Ⅱ
3		③ 教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。	Ⅱ
4	教職課程に関する組織的工夫	① 教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。	Ⅱ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現状
5	教職課程に関する組織的工夫	② 教職課程の運営に関して全学組織(教員養成サポートセンター等)と学部(学科)の教職課程担当者として適切な役割分担を図っている。	IV
6		③ 教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT 教育環境の適切な利用に関しても可能となっている。	II
7		④ 教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD(授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等)やSD(教職員の能力開発)の取り組みを展開している。	II
8		⑤ 教員養成の状況についての情報公表を行っている。	II
9		⑥ 全学組織(教員養成サポートセンター)と学部(学科)教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、この自己点検評価を通じて機能しつつある。	II

自己点検・評価シート 2

2 自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
項目 No. 5	・ 教員養成サポートセンターとは役割分担がうまく機能している
項目 No. 9	
課題事項<箇条書き> * 伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No. 全て	・ 栄養教諭課程の特殊性が、伸長・改善を難しくしている

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

〈伸長・改善の進捗状況〉

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
・栄養教諭課程の廃止に伴い、特段の取り組みは行っていない。

〈今年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	栄養科学部・栄養科学科
責任者（又は記入者）	村元 美代

基準領域 2	学生の確保・育成・キャリア支援

○事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記しますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

〈前年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
10	大学全体として共通する「教師像」をメッセージとして出せているのか検討したい。
11	免許種や学科の特性を踏まえた「教師像」を担保するものであるか基準の評価の機会を定期的にもちたい。
12	-
13	「履修カルテ」により、学生は自らの教職への道のを自己点検・評価することができるが、評価の基準であるその項目の内容の見直しやタイミングについて検討が必要である。
14	新入生オリエンテーションの教職課程ガイダンスの際に、「意向調査」を行うなどして早めに全体の希望を把握し、指導に結びつけることはできないか。対象者が把握できれば、働きかけも違ってくるのではないか。
15	教員採用試験対策として、教員採用試験の2次試験対策の体制を維持したまま、1次試験の実施体制を充実することで教員採用試験の合格率を上げるよう改善策をとりつつ点検を行っていく。
16	教員採用試験情報を、東北・関東地方の教育委員会からだけでなく外部機関からもより多く収集し在学生や卒業生に提供し、教員採用試験合格者の目標値を維持する。
17	法令等の理解を深めカリキュラム上の工夫を行う。
18	現職教員卒業生と教職志望の学生が直接交流できる機会を増やし、教員をめざす後輩たちの意識向上に役立てることができるように今後も継続していく。

〈前年度の評価結果（課題事項）〉

課題事項〈箇条書き〉 * 各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。

なし

〈【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項〉

* 認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。
このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート 1

所属学部・学科名	栄養科学部・栄養科学科
責任者（又は記入者）	村元 美代

基準領域 2	学生の確保・育成・キャリア支援

1 対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の4段階で記入してください。

判定の目安

- Ⅳ： 基準に十分に適合している
- Ⅲ： 基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。
- Ⅱ： 部分的に適合していないため改善を要する。
- Ⅰ： 基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現状
10	教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成	① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。	Ⅱ
11		② 「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始、継続するための基準を設定している。	Ⅱ
12		③ 「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。	Ⅲ
13		④ 「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。	Ⅲ
14	教職へのキャリア支援	① 学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。	Ⅳ
15		② 学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。	Ⅳ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
16	教職へのキャリア支援	③ 教職に就くための各種情報を適切に提供している。	Ⅳ
17		④ 教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。	Ⅳ
18		⑤ キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。	Ⅲ

自己点検・評価シート 2

2 自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
項目 No. 14	・栄養教諭課程の履修者が少数のため把握が容易である
項目 No. 15 項目 No. 16 項目 No. 17	・教員養成サポートセンターとの連携による。少人数のため個別に対応し合格に導いている
課題事項<箇条書き> *伸長すべき点、改善すべき点	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

〈伸長・改善の進捗状況〉

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
・栄養教諭課程は、その特殊性から履修者が上位学年になるにしたがって減少傾向にある。そのため、少人数であることが学生の状況把握を容易にしている。その関係で、個別相談から個人指導が進めやすいことが採用につながったと考える。

〈今年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	
No. 15 No. 16 No. 17	・教員採用試験受験希望者への個別相談・指導等の継続

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	栄養科学部・栄養科学科
責任者（又は記入者）	村元 美代

基準領域 3	適切な教育課程カリキュラム

○事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記していただきますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

〈前年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
19	栄養科学部では、教職科目を履修することにより履修登録上単位数が増え、選択科目の履修が思うようにできない傾向にある。そのため、建学の精神を具現化する多種多様な科目の履修が難しい。
20	栄養教諭養成課程では、文部科学省「教職課程認定基準」による教職科目が適切に開講されているが、管理栄養士養成施設であるため厚生労働省管轄の教育内容の科目履修配置が主軸となる。いわば2つの省庁をまたぐ養成課程である。そのため、栄養教諭養成の基礎資格である管理栄養士養成課程の履修科目数が多く栄養教育実習までの単位数取得までの難易度が高い。
21	栄養科学科では、栄養教諭が行わなければならない「個別指導」の実践を体験できる「糖尿病サマーキャンプ」に参加することが必要不可欠と考えるが本学科の学習時期と実施先の折り合いがつかないため参加できていない現状がある。
22	栄養教諭課程では、卒業研究は県外教育機関との連携であるため、ICT活用のための機械の入手設置が困難である。
23	栄養教諭課程では、アクティブラーニングのグループワークや模擬授業では、学生に考えさせる時間や演習させる時間を多く取ることになるため、授業時間が足りなくなる傾向にある。
24	栄養科学科の「評価方法」の記述は、管理栄養士の基礎資格である管理栄養士養成科目を対象としているため、栄養教諭一種免許状取得における「評価方法」との整合性を学生に周知することが必要である。
25	栄養教育実習を履修する者は、管理栄養士養成課程の「栄養科学科臨地実習履修承認規程」第1条から第5条の要件を満たし、かつ、栄養教育実習を履修する年度の前年度終了までに履修しなければならない。そのため、教育実習までに基礎資格である管理栄養士履修科目の単位取得を終えなければ二種免許状取得となる。

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
26	履修カルテの項目等見直しが進められている。文科省の「教職実践演習の実施に当たっての留意事項」では、授業計画の立案にあたって教育委員会や学校の意見を聞くことが望ましいとしている。継続的な意見聴取の必要がある。
27	栄養教諭課程におけるコロナ禍で学校給食協議会と盛岡市教育事務所主催の給食研究大会が中止となり教育現場に踏み込めない状況があり、その方策を検討することが必要である。
28	-
29	栄養教諭は養護教諭との連携が求められるため、ゲストティーチャーとして栄養教諭を招き講話をして頂き、東北の地域の子どもの実態や教育現場の最新事情について学生の理解を深める機会を設定していたが、コロナ禍のため実施されていない実情がある。
30	-
31	協力校での実習受け入れ人数には限度があるため出身校での実習を行わざるを得ない状況となっているが、可能な限り多くの学生が協力校での実習を行えるよう、引き続き教育委員会や近隣学校及び幼稚園との連携を図っていく。

〈前年度の評価結果（課題事項）〉

課題事項〈箇条書き〉 * 各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし

〈【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項〉

* 認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート 1

所属学部・学科名	栄養科学部・栄養科学科
責任者（又は記入者）	村元 美代

基準領域 3	適切な教育課程カリキュラム

1 対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の4段階で記入してください。

判定の目安

- Ⅳ： 基準に十分に適合している
- Ⅲ： 基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。
- Ⅱ： 部分的に適合していないため改善を要する。
- Ⅰ： 基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
19	教職課程カリキュラムの編成・実施	① 教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。	Ⅲ
20		② 学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。	Ⅲ
21		③ 教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。	Ⅱ
22		④ 今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。	Ⅰ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現状
23	教職課程カリキュラムの編成・実施	⑤ アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。	Ⅳ
24		⑥ 教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法を学生に明確に示している。	Ⅳ
25		⑦ 教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。	Ⅳ
26		⑧ 「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。	Ⅱ
27	実践的指導力育成と地域との連携	① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。	Ⅱ
28		② 様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。	Ⅰ
29		③ 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。	Ⅳ
30		④ 大学ないし教員養成サポートセンター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。	Ⅳ
31		⑤ 教員養成サポートセンター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。	Ⅳ

自己点検・評価シート 2

2 自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
項目 No. 23	・グループ活動により能動性・協調性・積極性などを培い、課題の発見と解決に導く力を養った
項目 No. 29	・ゲストティーチャーを招き講話をしていただいた
項目 No. 30	・教育委員会から紹介された実習校にて実習を行った
項目 No. 31	・実習協力校にて実習を行った
課題事項<箇条書き> *伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No. 22	・特性に見合った ICT 設備の導入は困難な状況にあり実施できていない
項目 No. 28	・臨地実習以外の体験活動がないため振り返りができていない

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

〈伸長・改善の進捗状況〉

対象年度における取り組み
*成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
・ゲストティーチャーによる講話を実施した。   盛岡教育事務所指導主事より、教育現場が求める教諭としての資質能力の向上を目指し、食に関する指導の解説と授業づくりのポイント、児童生徒のかかわり方、授業評価、教育現場に求められる栄養教諭像についてご指導をいただいた。

〈今年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	
No. 29	・引き続きゲストティーチャーによる講話を実施する

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	